

糖鎖科学の新展開

日時 2025年

オンライン開催

12月8日(月) 13:30 - 16:25

プログラム

- 13:30-13:35 開会あいさつ・活動報告 埼玉大学大学院理工学研究科 教授 松岡 浩司
- 13:35-14:25 **グリコタイピングが拓く糖質科学の温故知新**
糖鎖表現型（グリコタイプ）は血液型、血清型、癌抗原、分化マーカー等、生命科学の基礎的バイオマーカーである。本公演では近年開発した新世代の糖鎖表現型同定（グリコタイピング）技術について紹介する。
北海道大学大学院先端生命科学研究院 教授 比能 洋氏
- < 休憩 >
- 14:35-15:25 **糖・糖鎖の多様性と環境適応進化**
生体分子の一つである“糖鎖”に焦点をあて、糖・糖鎖の進化と生命の進化とがどのように関連してきたのかを知ろうとする内容である。様々な環境変化と生命環境との適応戦略の視点から糖や糖鎖の挙動について考えてみたいと思う。
東洋大学大学院 食環境科学研究科 教授 宮西 伸光氏
- < 休憩 >
- 15:35-16:25 **糖の起源と生物進化：
「炭素に水が化合したものがCarbohydrate」は正しいか**
我々が通常目にする糖鎖の非還元末端はガラクトースやシアル酸であることが多い。この理由が気になって糖に関する古典的な化学反応や生合成を調べた末に、糖の起源に関する仮説の構築に至った（Q Rev Biol. 1996 71, 365-80）。糖の定義は炭水化物とされるが、最近、最小の糖単位と考えられるホルムアルデヒドが暗黒星雲などで生成しうること示された。糖の誕生から「後生糖」であるガラクトースの登場と多細胞生物の進化の物語を辿ってみる。
東海国立大学機構名古屋大学 糖鎖生命コア研究所 特任教授 平林 淳氏

